しびれた言葉

野信夫

講談社

◉著者略歴

明治37年埼玉県本庄市に生まれ，東京浅草で育つ。慶応大学在学中より戯曲を書きはじめ，昭和8年に「ひと夜」でデビュー，昭和10年に発表した「巷談宵宮雨」で劇作家第一人者となる。
放送文化賞，芸術選奨，菊池寛賞，大谷竹次郎賞を受賞。昭和47年に芸術院会員となる。
著書に「ひと夜」「自選作品集」「宇野信夫戯曲選集」「役者と噺家」「白鼠橋」「はなし帖」「江戸の小ばなし」「大部屋役者」など多数がある。

しゃれた言葉

1981年2月10日　第1刷発行　1981年4月10日　第3刷発行

著者——宇野信夫

定価——1200円

© Nobuo Uno 1981 Printed in Japan

発行者——野間惟道

発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽2丁目12-21　〒112
☎ 03-945-1111（大代表）振替 東京 8-3930

装幀——安野光雅

協力——フジ企画

印刷所——慶昌堂印刷株式会社

製本所——藤沢製本株式会社

●落丁本・乱丁本はおとりかえします

0095-458397-2253（0）　（学2）

しゃれた言葉◉目次

しゃれた言葉

ある日友人がきて　10
言葉について十章　15
言葉とがめ　29
たたかいてえ　32
役者の句噺家の句　36
圓生からきいた話　44
正月の女　46
釈場の木枕　49
処女作　53
おはぐろ溝の古本屋　57
これからですよ　60
噺だけの噺家　65
わからない文章　70

独り言

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

遅日の対話　72
通夜　74
縁日　76
橋場　79
下町のむかし　82
演劇青年　87
舞台と高座　91
舞台劇と放送劇　94
芝居は一人で　98
春を待ちつつ　100
閑古鳥　103

片すみの話

人待つ宵　108
蚊帳の中のビルドラック　110
花札と賽コロ　114

哀しき理髪師　118
天どんの記　121

捨ゼリフ

泥棒の講義　126
名優の抗議　130
歌舞伎とは　134
捨てゼリフのうまい役者　140
何かにつけて六代目を　144

渾名(あだな)はしゃれ

白い少女　150
冬の雨　155
夫婦　158
役者とだんご　160

「おい！」 163
小さい謀叛人 168
本を読む時 171
老の坂道 176

遠い日の感傷

初旅 182
黄昏（たそがれ）の内蔵助 187
両蓋（りょうぶた）の懐中時計 191
江の島にて 196
古い軍服の先生 204

三遊亭圓生の言葉

三遊亭圓生・その死 210

しゃれた言葉

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

しゃれた言葉

ある日友人がきて

一

ある日友人Aがきて、

「この頃の学生の文字の素養のないのには驚く」と言う。外国へ留学にやってある息子から手紙がきて、

「先日の送金は紛失してしまいました。叱るべき処置をお願いします」と書いてあるそうだ。それでも意味は通じることは通じるがね、と友人は言う。親心である。

二

それで思い出したことがある。私の知っている女子学生が、

「お祖母様によろしく」と手紙に書いてよこした。それを見た当の祖母は、

「母が歳をとって粗末になったのだから、理屈だね」と言って、笑った。

三

ある日、友人Fがきて、

「この頃の娘にはかなわない」と言う。友人の娘には婚約者がある。婚約者は勤めの都合で今外国にいるが、来春には帰国して式をあげるという。ある晩、一生懸命、千代紙で鶴を折っているから、

「彼氏にでも送るのか」ときくと、

「こんなもの送ってどうするのよ。来春にはすべてをやっちまうんだもの」

四

ある日、友人Gがきて、

「娘が結婚した」と言う。それはおめでたいと言うと、

「ちっともめでたくない。というのは、テレビ俳優と結ばれたんだが、そのテレビ俳優が、うちでテレビばかり見ている」

五

ある日、友人Hがきて言った。

「今そこで面白いものを見た。建築中のマンションの前に立札がたててあり、それに〈今年未完成〉と書いてある。おそらく〈今年末完成〉のつもりだろうが」

それに似た話がある。町内の店舗に貼紙がしてあって、〈大バーゲンセール〉と書いてあったことがある。おそらく、〈大バーゲンセール〉のつもりなのだろうが。

六

ある日友人がきて、言った。

「世の中に最良の妻が二人ある。死んでしまった妻と、まだ探しあたらぬ女だ」

七

ある日友人がきて、言った。

「若い時は愛人。中年には相談相手。

そして老年には看護婦。これが最良の妻だ」

八

ある日友人がきて、友人を得るいい方法が二つあると言った。それは、

一、金を貸す。
二、本を借りる。
友人を失う方法も二つあると言った。
一、金を貸す。
二、本を借りる。

九

友人の歯医者が、近来つくづく自分の仕事がイヤになったという。
「患者がくれば、みんな悲鳴をあげる。こなけゃ家内が悲鳴をあげる」

十

ある日友人Eがきて、言った。
「人間は生涯に三度諸人に見られる。
生まれた時に見られ、
結婚の時に見られ、
そして、死骸で葬式の時に見られる」

十一

何ごとにも自信たっぷりの知人がいる。ある女性に恋をした。

相手もこっちに惚れていると思いこんで、せっせと手紙を書いた。ところが返事がない。相手は大学出で、評論の一つも書こうという人だ。知人は女性の家へおしかけて行って、

「ぼくと結婚して下さい」と、単刀直入に言った。すると女流新進評論家は言下に、

「おことわりします」と言った。

「しかし、あなたの審美眼はみとめるわ」

この一言で、さすがに心臓の強い知人も、二の句がつげずにひき下がったそうだ。

十二

終戦直後、はじめて噺家(はなしか)の文楽(ぶんらく)にあった時、どうです、あの方は、と小指を示して冗談を言うと、真面目な顔つきでやや考えてから、「多少」と、言った。

十三

昔の講釈師のうちには、無学で調子にまかせて出たとこまかせを言う人がいた。調子よく、おめず

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com